

嶋遺跡公園 園内マップ

遺跡広場

建物の大きさを感じてみよう。



遊具広場

ブランコやすべりだいなどの遊具がたくさんあるよ。



- 所在地 山形県山形市嶋北二丁目3番1
- 駐車場 普通車68台(うち身障者用2台)、大型車2台
利用可能期間 4月1日～11月30日
利用可能時間 8:00～20:00
利用料 無料

交通のご案内

- バス JR山形駅から(桧町・嶋)山形病院行き
嶋公園前バス停下車 徒歩5分
- 自動車 山形自動車道山形北I.C.より車で約20分



お問い合わせ

山形市教育委員会 社会教育青少年課
住 所：〒990-8540 山形市旅籠町二丁目3番25号
電 話：023-641-1212 FAX：023-624-8443
e-mail：shakyo@city.yamagata-yamagata.lg.jp



歴史のであい広場

展示あずまやでは、嶋遺跡の写真や出土品のレプリカを展示してるよ。



嶋遺跡とは

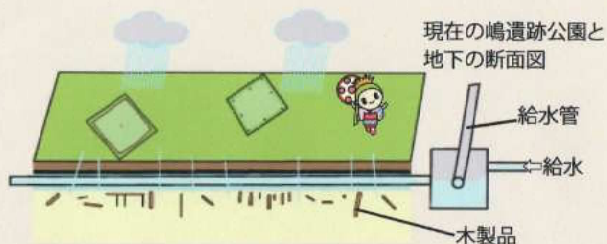
嶋遺跡は、低湿地に立地する古墳時代おわり頃（約 1400 年前）のむらのあとです。建物跡や土器、木の道具、植物の種などがたくさん発見され、その保存状態が良いことから、広く全国に知られるようになりました。特に木製品には、鞍、弓など古墳の副葬品と共通するものをはじめ、杵、梯子、木製容器など多種多様のものがあります。東北地方の古墳時代の村落形態や生活様式を研究するうえで重要な遺跡として、昭和41年に国の史跡に指定されています。



嶋遺跡発掘調査のようす

嶋遺跡の保存について

地下にねむる遺跡を大切に保存し未来へ引き継いでいくため、遺跡全体を盛土で保護し、地下水位の変動を少なくするための施設整備を行いました。地下水が不足する場合は、ポンプで補給しています。



嶋遺跡は、古墳時代に嶋地区に生きた人々のくらしや山形の歴史を明らかにするための大切な文化遺産です。遺跡の保護について皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

発見された遺構

嶋遺跡は、馬見ヶ崎川扇状地の北側の低湿地に位置しています。水はけがあまり良くない土地にしっかりした建物をたてるため、柱を地面に深く打ち込んでいるのが大きな特徴です。このような打込柱式の建物は、東北地方ではここ嶋遺跡と、天童市の西沼田遺跡しか見つかっていません。建物は平地式建物と高床式建物の二種類があります。

◎平地式建物

地面を床にした建物です。湿らないよう、炭や砂混じりの粘土、木の皮を何層も床に敷いた(貼床)建物もありました。寝起きをする住居に使ったと思われます。

◎高床式建物

地面より高いところに床がある建物です。米などの食料をたくわえる倉庫などに使われました。建物の近くに、梯子やネズミ返し用の板、炭のように黒くなった米がたくさん見つかりました。

◎打ち込まれた柱

この柱は、地下1.6mの深さまで打ち込まれていました。腐って失われた地上の部分は、打ち込まれた深さの1.5～2倍の長さで想定されますが、それほど長い柱をどうやって打ち込んだのか、分かっていません。

嶋のむらに住んだ人々の技術の高さを感じることができます。

柱の下部分は、地面にささりやすいよう、斜めにとがらせていました。

柱の下部の写真⇒



◎祭祀の跡

右の写真は、古墳時代の土器が重なって出土した様子です。儀式や祭祀で使った器が捨てられた痕跡かもしれません。

嶋遺跡では、このように土器がまとまって出土した場所が、大小合わせて3か所見つっています。



発見された遺物

当時、嶋のむらにくらした人々が使ったさまざまな道具が発見されています。特に、普通は腐ってしまう木製の道具や植物の種などが多く残っていました。また、子持勾玉やこはく玉などの玉類、弓や馬具などの貴重な道具も見つっています。



出土した土器 山形大学附属博物館所蔵



すき (現在のスコップ)



たげた 田下駄(足が泥に沈むのを防ぐ)



たてきね 竪杵



くら 鞍(馬の背にのせて使う)



水などをそそぐ容器



もくぜい ばぐ つば 木製馬具(壺あぶみ)



子持勾玉



こはく玉